

やまと通信

やまと石材がお届けする、手作り新聞

vol.185
2021.8

〔特集〕

お釈迦様の幼年期…その苦悩

1・2ページ

仏像・あれこれシリーズ「へえ～そうなんだ！」

如来像の「身体チェック」しちゃいました!…Vol.4

3ページ

日本人の宗教行為

ダントツは初詣とお墓参りです!

4ページ

やまとの楽しい? 営業研修!

「窓」を開けるとこんな自分が!?

5ページ

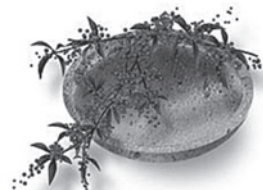
お客様の声

6ページ

「大切な人に贈りたい」語りつがれる絵本

良きご縁をありがとうございます

7ページ



ふたつの季節が織りなす「行合の空」



暦の上ではもうそろそろ秋を迎える季節です。それでも気温だけを見ると、まだまだ「夏」真っ盛りという感じがしますね。そんな時ちょっと空を見上げてみてください。そこには少しずつ変化が・・・

夏空の代表、入道雲に混じって、筆で掃いたような雲が姿をあらわしていませんか? このように夏雲と秋雲が入り混じる空を「行合の空(ゆきあいのそら)」と呼びます。

何気なく見上げた空の、ちょっとした変化を見ているだけで、時間がゆっくり流れていきそうです。

〔特集〕

お釈迦様の 幼年期…その苦悩



こんにちは。青森店営業部の佐々木です。

今年の夏もねぶた祭りが無かったわけですが、青森出身の私にとっては「夏の終わり」を肌で感じる事が出来る行事がないと、このまま知らないうちに秋を迎えそうで何となく落ち着きません。

さて今回の話題は、仏教の開祖、お釈迦様の幼年期についてお話したいと思います。

「奇跡の王子」 お釈迦様の誕生

お釈迦様の生誕は、紀元前463年とも566年とも言われておりますが、詳しいところはわかっていないようです。名前の由来は、インドのシャーカー族の王子として生まれたことから「釈迦」という呼び名が定着したということです。そしてその種族の聖者ということから「釈迦牟尼世尊」、略して「釈尊」とも呼ばれております。



予言・・・全人類を救う「仏陀」！

釈尊は国王の浄飯王と摩耶夫人の間に生まれたわけですが、世継ぎが誕生したことに大喜びをした浄飯王は「目的を達成したもの」という意味の「シッダールタ」という名前を付けました。そしてシッダールタの未来を占ってもらおうと、ヒマラヤ山中から聖者を招きました。その結果は・・・「この王子は王位を継げば必ず全世界を治

める転輪聖王となる。また、出家をすれば全人類を救う「仏陀」となられるでしょう」と予言をしたそうです。

それを聞いた浄飯王は、何としても王位を継がせたいと思い、シッダールタに帝王学を身に着けさせようとしてしました。シッダールタは文武両道において、そのすべてに並外れた才能を持っていたということです。

お釈迦様の苦悩のはじまり

その後、シッダールタに転機が訪れます。12歳の春の事でした。五穀豊穡を祈る鋤入れ式の際、牛が犁を引いて田を耕す行事があり、そこでシッダールタはあることを目にしたのです。

耕した土の中から小さな虫がはい出します。その虫を一羽の小鳥がついばみました。そこへさらに大きな猛禽がその小鳥に爪をかけ飛び去った場面です。まさに「弱肉強食」の世界です。それを見たシッダールタは深く物思いに沈み、木の下で瞑想に入りました。

その間、太陽は東から西へ動き、それに合わせて木々の影も移動していきます。しかしシッダールタが座している木の影だけは、その場を動くことなく彼の上に影を落としていたということです。

それを見た浄飯王はシッダールタを案じ、何とか彼の出家への道を諦めさせようと様々な贅沢を与えたということです。しかし、それでもなおシッダールタの人生についての悩みは深まるばかりでした。

(参考資料：早稲田大学教授 大久保良峻 監修 「仏教と仏事のすべて」より)

いかがでしたでしょうか。お釈迦様が出家に赴くきっかけとなりました幼年期の出来事。特に弱肉強食の世界を垣間見たお話は、ご存じの方も多いかと思われます。いずれにしても、凡人を絵に描いたような私の幼年期と比べると（比べることすらおこがましい！）お釈迦様の凄さにあらためて気付かされます。



仏像・あれこれシリーズ

「へえ～ そうなんだ！」

こちらのコーナーでは、知っているようで知らない「仏像」のあれこれをお届けしていきたいと思います。・・・きっと誰かに教えたくなる・・・！？



青森店営業部 宮崎 陽

如来像の「身体チェック」しちゃいました!・・・Vol.4

仏像には「三十二相八十種好」と呼ばれる“仏の尊い身体的特徴”があるとされているそうです。身近な仏像（如来）は、これらの特徴に基づいて造られているそうです。

三十二相のほんの一部をご紹介します！

「一一孔一毛相（いちいちこういちもうしょうそう）」

仏さまは毛穴の各々に必ず青瑠璃色の毛が一本生え、良い香りを漂わせています。

また、その毛端にはそれぞれ蓮華の花が咲き、その花には化仏が宿っている様を表します。

<意味>一つの毛穴に一本の毛が生えることはごく当たり前、日々の中の当たり前であることに“尊さ”を伝える。

「金色相（こんじきそう）」

全身（身体手足）が黄金色に輝いている。

<意味>心を喜びで満ち、妬みや怒りから離れさせた証。

「丈光相（じょうこうそう）」

身体から四方各一丈の光明を放つ。後光、光背。

<意味>迷いを除き、願いを叶える。



「細薄皮相（さいはくひそう）」

肌が柔らかく滑らかで塵や垢を留めない様子

<意味>肌に付着する塵や垢のように凝り固まった考えを持たず、誰にでも平等である様子。

～おまけ～

「八十種好」とは・・・三十二相をさらに細分化した仏様の特徴です。

「出臍（でべそ）ではない。（臍不出）」、「腹は常に隠されている。（腹不現）」、「腹は脹れていない。（細腹）」、「身体は傾いていなくて、揺ぎない。（身不傾動）」などがあります。

もう一つおまけですが、現在私の腹は全く隠れておらず、さらに太腹という状況です・・・（泣）

日本人の宗教行為

ダントツは初詣とお墓参りです！



弘前店営業部 伊藤 杏美

日本人の一番の宗教行為って？

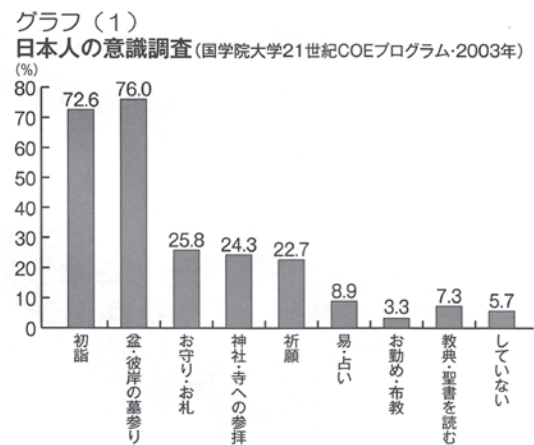
「私は無宗教なんです」・・・最近はそのような「宗教離れ」が進んできているように感じます。そんな時代だからこそ、あらためてお届けしたいと思います。ちょっと古いデータですがお許しください。

まずは右のグラフ（１）をご覧ください。

「データブック 現代日本人の宗教」（新曜社）の本によると、戦後の日本人の「宗教行為」として、なんと第1位が「お墓参り」、次いで「初詣」となっており、実に70%以上を占めていることがわかりました。普段何気なく、また当然のように行っていたお墓参りや初詣ですが、そこには精神的なものがあるような気がします。

「宗教行為」として捉えているかは別にして、自然とお正月には初詣、お盆にはお墓参りに行かれる方も多いのではないのでしょうか。宗教離れと言われますが、これらは私たちの心に根付いた日本人の信仰そのものなのですね。

なんとなくホッとするような気持ちになるのは私だけ？



信仰があれば年の差なんて！？

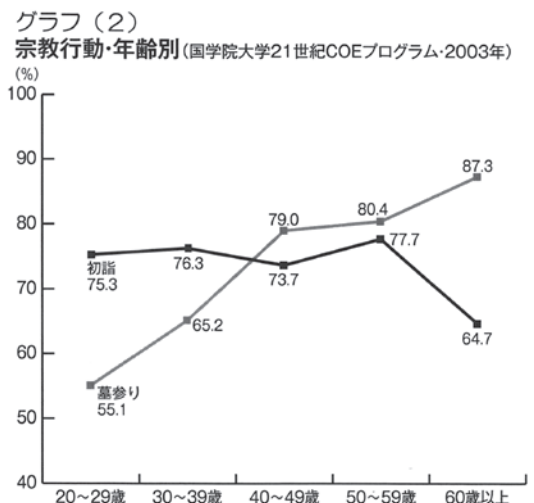
それではこのお墓参りと初詣に焦点を絞って、年齢別に比較してみましょう。

次のグラフ（２）をご覧ください。

これは、この2つの行為を見る上でとてもおもしろい結果だと思いませんか？

お墓参りは年を重ねるごとに増えていき、逆に初詣は徐々に減っていったるんですね。つまりお墓参りや初詣は共に高い実施率を示していますが、それぞれ違った年齢層によって支えられていることがわかります。

そういえば、お正月の初詣のテレビ映像には、若い人達が多く映っているように思いますね。



やまとの楽しい？ 営業研修！

「窓」を開けると こんな自分が!?



弘前店営業部 相内 翔太

唐突ですが、皆様は「ジョハリの窓」というのをご存じでしょうか。これは自己の公開とコミュニケーションの円滑な進め方を考えるために提案された考え方で、研修などにも広く使用されているものです。なんとその考え方を、私たち営業員個々人にあてはめてグループワークを行いました。

端的に申し上げますと、「自分はこんな人だと思っているけど、他人はどんなふうに見ているの？」ということを確認し合うとても恥ずかしいワークです。

まずは全員が個人ごとに、付箋に自分のいいところ（強いところ）を一つずつ挙げていきます。その後、他の皆さんから「あなたは他にもこんな良いところもあるよ」という、気恥ずかしい言葉を頂戴します。そうすると、自分が挙げた項目にはない「自分の強み」が少なからず見えてきます。

自分が挙げた項目はジョハリの窓でいうと「開放の窓（自分もみんなも知っている）」となります。そして、自分は気付いていない項目は「盲点の窓」ということとなります。

それを個々人で出し合うわけですが、意外と「えっ!?自分はそんな風にみられているの?」とか「そこも私の強みなんだ!」と気付かされます。そうなると、恥ずかしさを乗り越えて気分が上がってきます。私なんかはさらに乗り越えて思い上がりの勘違い男にまで上り詰めそうです。

この研修の目的は、相手の弱いところや悪いところを指摘するのではなく、良いところを認めてもらい気付かせてくれるという、モチベーション向上研修でした。

このモチベーションを可能な限り持続し、猛暑を乗り越えたいと思います。



自分で自分の良いところを発表するのは恥ずかしいですね。



「盲点の窓」が埋まっていくにつれて、全員が浮足立ってきました。

お客様の声

やまと石材に大切なお墓づくりを託していただいたお客様からのおたよりです。
本当にありがとうございました。

母への「ありがとう」と感謝の気持ちがつまったお墓です

青森市・Y様

初めての**お墓作り**でわからない事がたくさんありましたが、スタッフの方々が丁寧に教えて下さったおかげで、**素敵なお墓**が出来ました。

母への「ありがとう」と**感謝の気持ち**がつまったお墓を今後家族一同大切にしていきたいと思います。

ふらふらと立ち寄ったやまと石材でしたが、とても親切にしてくださいました。やまと石材で**お墓**を作って良かったです。



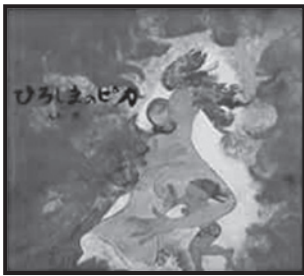
白御影石をベースにした明るい雰囲気があり、一部に黒御影石も取り入れたことで全体的に引き締まったお墓が完成しました。お母様への「ありがとう」という言葉がとても印象的な素敵なお墓です。

担当者からひとこと



青森店営業部 宮崎 陽

Y様この度は、大切な**お墓づくり**をお任せ頂きありがとうございました。ご満足頂けるお墓づくりが出来た事、本当に嬉しく思います。今後ともよろしくお願いたします。



「大切な人に贈りたい」 いつまでも語りつがれる絵本

「ひろしまのピカ」

丸木 俊 (文・絵) 小峰書店

その朝、ひろしまの空はからりと晴れていました。
 みいちゃんは、おとうさんとおかあさんといっしょに、おいもの入ったもも色のごはんを「うまいのー」と言いながら食べていました。
 そのとき。ピカッ！
 青白い100も200もの雷がいつぺんに落ちたような光。
 広島町は一変しました。
 逃げ惑う人々。
 みいちゃんたち一家は・・・
 「ピカは、人がおとさにゃ、落ちてこん」

このセリフは私の心にも刺さりました。被ばくされた人々の怒りが表れているような気がします。今ある私たちの平和は、たくさんの命の犠牲の上に成り立っていることを忘れてはなりませんね。

シヨールム課・佐藤江里子

絵本の読み聞かせボランティアを続けて10数年。心に響く素敵な絵本を少しでも紹介できれば幸いです。



良きご縁をありがとうございます

弘前市石川	西津軽郡深浦町追良瀬	むつ市上川町	むつ市松森町	弘前市堅田	青森市久須志	東津軽郡平内町外童子	青森市沖館	青森市石江	青森市自由ヶ丘	北津軽郡中泊町小泊	青森市小館	青森市油川	弘前市樋の口	弘前市田園	黒石市黒石	青森市浪岡福田	東津軽郡外ヶ浜町平館	青森市大野	青森市浜館	八戸市中居林	東津軽郡平内町小湊	弘前市大原	青森市石江	青森市羽白
相馬様	吉田様	松館様	石田様	古館様	吉崎様	渡邊様	下山様	村田様	小川様	岡崎様	鎌田様	須藤様	長谷川様	野呂様	小田桐様	三浦様	木村様	永田様	畑山様	藤田様	小森様	武蔵様	三上様	今本様

※今月号で紹介しきれなかったお客様は、また次の機会に掲載いたします。

ご意見・ご感想・質問どんなことでもお便り下さい。

Landwork 日本最大36店舗の
 墓石専門店グループ



【青森本店】〒030-0946 青森市古館1-13-13
 TEL. 017-744-1488 FAX. 017-765-1388

【弘前店】〒036-8076 弘前市境関1-1-1
 TEL. 0172-27-1455 FAX. 0172-27-1492

E-mail info@yamatossekizai.com 青森 やまと石材 検索

〒036-8076

弘前市境関1-1-1
 (株)やまと石材(弘前店)
 やまと通信係

〒030-0946

青森市古館1-13-13
 (株)やまと石材(青森本店)
 やまと通信係

編集後記

ねぶた祭りを境に青森には秋風が・・・と言われますが、そんなことはありません。これから夏本番？というくらい暑さは続きそうです。なによりねぶた祭が今年もありませんでした。来年こそは！！(佐々木)